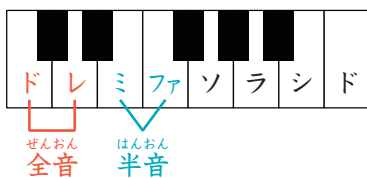


音階

半音と全音

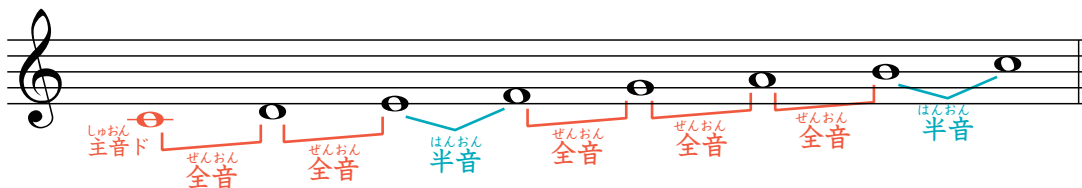


ピアノなどの鍵盤を見ると、ドとレの間には黒鍵が1つありますが、ミとファの間には黒鍵がありません。「ド・レ」のように2つの音の間に鍵を1つはさむ音程を「**全音**」とよびます。「レ・ミ」「ファ・ソ」「ミ・ファの#」「ファの#・ソの#」などの音程も、2つの音の間に鍵を1つはさむので全て全音です。また、「ミ・ファ」のように鍵をはさまない音程を「**半音**」とよびます。「ド・ドの#」「レの#・ミ」などの音程も半音です。

長音階 (メジャースケール)

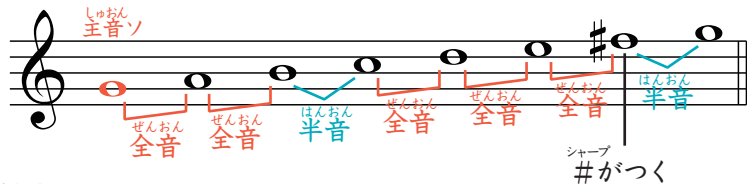
ある音(主音)からその1オクターブ上の音までを規則的に高さ順に並べたものを**音階**といいます。音階には、明るい感じの**長調**の曲で使われる**長音階**と、暗い感じの**短調**の曲で使われる**短音階**があり、例えば、ピアノの中央のドから1オクターブ上のドまで、白鍵の音だけ「ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド」と順に並べると、**ドを主音とする長音階**になります。ドは日本語では「ハ」の音なので、この音階を**ハ調の長音階**、この音階を使って作られた曲の**調**(※)を**ハ長調**といいます。 ※調…主音と、音階の種類

◆ハ調の長音階 (Cメジャースケール)



長音階は主音から「**全音** → **全音** → **半音** → **全音** → **全音** → **全音** → **半音**」という順に上がっていきます。この進行の決まりを守ることで、どの音を主音としても、その音から始まる長音階を作ることができます。例えばソを主音とした**ト調の長音階**は、次のようになります。長音階の進行の決まりを守るために、**ファ**が半音上がって**ファの#**になるところに注目しましょう。

◆ト調の長音階 (Gメジャースケール)



◆ト長調の調号



ト長調の楽譜では、ファが常に半音高くなるので、音部記号の右のファの位置に#記号がつけられます。これを**調号**といい、曲全体のファが、すべて半音高くなることを表します。

短音階 (マイナースケール)

短音階には次の3種類があり、これらを使った曲は**短調**になります。

全てイ調の短音階 (Aマイナースケール)

◆自然的短音階



◆和声的短音階



◆旋律的短音階



おんめい音名

イタリア語	Do	Re	Mi	Fa	Sol	La	Si
日本語	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	イ	ロ
ドイツ語	C	D	E	F	G	A	H
英語	C	D	E	F	G	A	B

日本では、個々の音を表す時は「ドレミ」、調を表す時は、ハ長調、イ短調など日本語の音名が使われることが多い様です。